



所信

2019年度 理事長 岡田和久

藤林コンクリート工業(株)

●スローガン

起点 —move next Kashiwazaki—

●Mission

自己を律し、互いを高め、地域社会の起点となる人材の集結をめざす

●Vision

- ・自己を律し、責任を果たせるかっこいい青年の集団へ
- ・個々の個性と才能に感激し、互いに切磋琢磨できる集団へ
- ・会員の知恵と行動力でエネルギーが充実した集団へ

●Value

想い支え、応え挑み、果し繋ぐ

<はじめに>

10年前、私は柏崎羽羽の一員となった。穏やかな海は南に広がり、冬は晴天が続く。雪は数えるほどしか降らないのが当たり前だと思っていた私の固定観念は全く通用せず、同時に「次代の経営者」として、柏崎青年会議所に入会し、それまでとは違う環境でそれまでとは違う責任を感じるようになった。

柏崎青年会議所は今年63回目のスタートを切る。私の経験した10年間は、その歴史のなかのほんの刹那的なのだが、青年会議所は、私には十分なほど、多くの仲間と経験、そして「認められたい」、「負けたくない」と思える機会を与えてくれた。

多くの先輩諸氏が築いてきた青年会議所は、数多の個性と才能の蓄積であって、この場で運動する私たちはそれを誇りに思い、その誇りを一歩前進する勇氣に変え、さらなる誇りを次代の会員へ繋いでいく。弱い気持ちの自分を超え、青年に与えられた挑戦する機会を逃してはならない。

<会員拡大と拡大運動で実現する自己成長>

個性と才能の集積がその団体の力であると思える。互いに異なる個性と、自分にはない才能のぶつかり合いが多岐にわたる個性を生み、また時にそれを受け入れる寛容さも生まれる。当然、その個性が多ければ多いほどそのような機会が生まれ、私たちは成長できる。青年会議所の維持のためだけにとどまらず、私たちの成長のためにも、多くの会員を迎え入れることが必要である。

先輩諸氏からいただいたこの学び舎が豊かなものであり続けるには、私たちがこの青年会議所の魅力と必要性を改めて理解し、日常の運動のなかで自らを律し学びを得て、それを迎える新たな青年世代にしっかりと伝えていかなければならない。まさに自己の成長の機会を拡大運動と表裏一体なのである。

私たちが唱える「JCI Mission」には「青年が積極的な変革を創造し開拓するために、能動的な活動ができる機会を提供する」とある。そのミッションの先には「青年の行動的・市民活動を支援する国際的なネットワークをもつ先導的機関となる」という「JCI Vision」が掲げられている。私たちが取り組むべき最も重要なミッションは青年への提供、すなわち会員拡大なのである。

私たちが拡大運動を組織的に行う手法を学んだ。この手法を私たちが柏崎青年会議所のプライドをかけて実行してみせよう。そして、その新たな会員とともに、先輩諸氏を迎え新年を祝い、地域の事業に参画しよう。そのエネルギー溢れる姿はきっと地域の起点となり、人々を刺激し、更なる会員の拡大の力となると信じている。未来に繋がる「仲間と自己研鑽を積みながら、地域のために活動する団体」の姿を見せよう。

<原子力発電所と日本のエネルギー安全保障の理解>

私たち柏崎青年会議所は、1971年に原子力発電所の建設を積極的に推進する事を全会員の意志として決議した（「原子力発電所建設推進決議」）。我が郷土柏崎の将来にぜひとも必要であるという結論に達したのだ。以来、常に「柏崎のまちづくり」を念頭に置きながら原子力発電所の推進をおこなってきた。1999年には電源立地である当地の地域振興がはかられたが、原子力発電所と地域とが共生していくことを強く切望したうえで、当地へのエネルギー供給の受け入れに賛成することに決断した。一方、事業者である東京電力株式会社（当時）へは、必要に応じて申し入れを行い、建設推進を決議した責任を果たすべくは多岐にわたる姿勢を示してきた。

近年、中越沖地震、東日本大震災などの災害により原子力発電を取り巻く環境は大きく変わっている。一方で化石燃料は原油輸入元である中東諸国の政治的な不安定、またシェールガスの採掘によりもたらされた世界的な需給バランスの変化、さらにその需給バランスの変化がもたらす一層の政治不安により、その確保と電力の生産に安寧を求められなくなっている。また、タンカーの航路となるホルムズ海峡、マラッカ海峡に加え東シナ海の安全保障も決して看過できない問題であろう。

現代の生活に電気が必要とするのは必然であり、資源小国である日本が電力を安定的に確保することはまさに生命線である。当然のようにエネルギーを消費しているのが、実は全く当然でないことを私たちは知らなければならぬ。「怖い」、「不安だ」という気持ちを避けて世の中が進むがちな今、その進む先にもっと「怖い」、「不安」な現実が待ち受けていないか、世論はそこまで見つめられているのだろうか。

漠然とした不安はその不安としっかりと対峙すれば解消されることも少なくない。リスクはリスクとして存在する。すべてのリスクを排除しようとするれば、それは経済の縮小などというものでは収まらず、前近代的な生活を選択することになりかねない。しかし私たちはそうではない。交通事故のリスクを認めながらも自動車を使って移動し時間を獲得し、飛行機を利用して移動する。リスクの存在を認めながら、同時に、かつ無意識に、そのリスクを回避しようとする積み上げた技術と人の力を信じ、リスクと共存しているのである。

生きることはリスクとの共生に他ならない。数え切れないほどの情報が発信されている今、テレビ番組や新聞記事などのメディアからのメッセージを主体的、批判的に読み解く能力を身に付け、多くを学び、自身の考えをしっかりと持ち発信し、未来に後悔のない今を創る起点としよう。

<柏崎を離れる青少年に懸ける地域の未来>

柏崎羽羽地域の豊かな自然と人情に育まれた青少年の多くは、高等学校を卒業するとあかたが当然のように地域を離れてしまう時代になっている。故郷を離れる彼らは、故郷に愛着を感じながらも、自身の夢というボジティブな要因と全国的な地方経済の減速というネガティブな要因により市外での進学または就職という選択を受け入れるのが現実ではないだろうか。

ひとりの価値観はひとりの数だけあるはずで、そのような固定的な生き方を、彼らのすべてが望んでいないのではないかと、自然とともに住み暮らし、職住近接の地で余暇を十分に楽しむ。都会ではできないような生活がここにあり、それは紛れもない柏崎羽羽地域の魅力である。季節によって変化を見せる羽羽三山に囲まれた、表情豊かな海に山に余暇を求め、都会では最寄り駅まで行くのにかかる時間の間に、私たちはもう水に親しみ、雪と遊ぶ。このような「うらやましい」環境にあることをわかってもらいたくない。

都会でしかできない仕事があることは事実である。一方、柏崎羽羽地域にも日本のモノづくりを支える製造業をはじめ、豊かな風土に恵まれた農業、漁業、そして農漁業をより輝かせる商業、観光業があることもまた事実である。さらに、情報通信技術の発達により、時間と距離は大きな要素ははなくなりもする。子どもたちが職に就くころには、もっと時間と距離の存在は薄らいでいるかもしれない。

私たちがここに生まれ育った青少年にとって当然、この柏崎羽羽地域の魅力を、私たちも、彼らも「価値あること」としてしっかりと認識し、ひとつでもこの地域での未来に希望を持って、後ろ髪をひかれる気持ちを持ってもらいながら都会に送り出すのが私たちの使命ではないだろうか。

この地域で事業を営む青年が会員の大部分を占める私たちこそ、青少年が柏崎羽羽地域での将来を描く機会を積極的に提供しなくてはならない。その姿勢は人口減少社会において地方に暮らすこれからの責任世代が避けて通ってはならない課題だと考える。私の未来は私だけの未来ではない。地域に暮らす皆の未来が見える起点をここに創造しよう。

<人口減少時代に発展する地域の経営ビジョン>

人口減少の影響が危惧されて久しいが、いよいよ私たちの身の回りにもその影響を感じざるをえなくなってきた。資本はその価値を経営資源によって拡大し、増え続ける人口、すなわち新たな消費者とともに、その価値がさらに新たな価値を生んできた。これが当然であって、約束されるものであるから、昭和の時代を築いてきた先人たちは一心不乱に努力を続け、今の日本を創りあげた。

人口が減少し、労働者が減少する。当然、消費者も減少する。総人口の減少以上に生産年齢人口の減少の衝撃は大きく、私たちは予期し

ていたはずの人口減少時代に突入しても、その荒波のなかで未だ戸惑っているだけの現状ではないだろうか。頑張れば報われる時代から、頑張っても何も変わらないのではないかと、そして、頑張っても仕方ないかもしれない、そんな気持ちを心のどこかに持ってしまっているのかもしれない。

しかしながら、私たち青年世代はそのような不安に苛まれるはいけな。地域社会の要となることを自負し、私たち自身が起点となり、新たな地域社会を築いていかなければならない。それは決して後退でも調整でもない、発展である。

この地域には、素晴らしい価値を持っているのに、未だ見落としたり忘れられていることはないだろうか。きっかけさえあれば輝くはずの地域資源が、眠ったままになっていないだろうか。さらに、技術の飛躍的進歩によって、今日の社会はますます便利になりつつある。私たちが人口減少による地方経済の衰退に戸惑っている間にも、その技術進歩により、これまでないビジネスモデルやサービス、想像のない産業の芽吹きすら起こっている。隠れた地域資源を活かし、この柏崎羽羽地域を舞台に、未来ある子どもたちに自信をもって繋ぐことのできる道に創っていく。

<これからの柏崎青年会議所におけるプラットフォームの構築>

全国の青年会議所の多くは会員数の減少に見舞われており、柏崎青年会議所も例外ではない。この2年間で会員の3割が卒業を迎えるというまさに危機的な状況にある。青年会議所は、20歳以上から40歳未満の品格ある青年の集合体であるが、30歳以上の会員がほんの数名しかないことにも目を背けてはならない。柏崎羽羽地域の青年層の空洞化という現実、もしかすると私たちが他の誰よりも、最も認識しているのかもしれない。

この会員の減少に対して、冒頭述べたように会員拡大運動に重きを置き、今年度の運動を進める一方、柏崎青年会議所の運営も検討していかなければならないと考える。入会金を含めた会費の検討や、収入、支出については新潟県内の各地の青年会議所の運営も参考にしながら、これまでの運営をフラットな目線で見つめなおすことが必要だ。

私たちの運動の発信についても考えていこう。影響を与えなければならぬ同じ青年層にどうすればメッセージが届くのか、私たちがとっては大きな課題である。ウェブサイトやSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）が世に広まり久しいが、刻々とその技術は進化し、手元で情報が得られるようになってきている。家庭にある通信機器も変わってきている。また、私たちの事業に参加される方の個人情報にも注意を払う必要が迫ってきた。法人として時代に沿った的確な運営と発信ができるよう、研究を重ねよう。

<結びに>

青年会議所運動は、そこで活動できるし体験できない、学びえない、「何か」を得るものとする。一方で、人生において青年会議所運動はなくてはならないものではない。現代の日本に生まれれば、食に困窮することなく、教育を受けられ、医療を受けられる。事業を営み、働き、対価を得られ、そこで受け取る通貨も疑いのないものである。JC運動がなくても、誰も困らないし、なくなったことに気づきもしないだろう。しかし、だからこそ、その「なくても気づかないもの」に全力で取り組み、全力で「よりのもの」を創りあげようとする姿、そこに注ぎ込まれる個性と才能が輝いたと感じる。例えや事業を企画するうえで、会員それぞれ視野の広さ、行動力、成功させようとする信念、そこには「誰かのせいにしてしまう」などの気持ちは微塵もなく、それぞれが能動的な意思が途切れない集まっていく。

青年会議所での活動は、「想い支え、応え挑み、果し繋ぐ」ことだと考える。誰かが、地域を想い、支え、その誰かはその想いに応え、超えなければならぬ壁に挑み、その挑戦を果したものが次の世代に繋いでいく。この価値観を愛しながら、未来ある「起点」をここに創っていく。

さあ、自らを動かす、地域を動かそう。自分が起点となろう。それができるのが「私たち」なのだから。

所信／所感



直前理事長 荒川 学 (有)荒川製材所

新年あけましておめでとうございます。2018年、様々な場所に出席させていただいた際には、その都度多くの先輩の皆さまに優しく接していただきまして、大変にありがとうございました。

理事会メンバーそして会員の皆さまに支えていただき、NBCブロック野球大会主管や100%例会の達成など含め、たくさん記憶と記録に残る1年を過ごすことが出来ました。

2019年度は、直前理事長として岡田理事長の支えになり、そして卒業生としても、今まで経験させていただいた事、先輩の皆さまから伝えていただいたことを会員の皆さんに伝え繋ぐ事、明るく笑顔で、時に厳しく務めてまいります。本年もよろしく願いいたします。



専務理事 坂本 啓 ハッピートーラス

新年明けましておめでとうございます。本年度、専務理事を務める坂本 啓と申します。理事経験の浅い私がこのような役割をいただけることができまして感謝いたします。

本年度は新潟県の各会議所メンバーと交流を深めることができ、又たくさん学びの場がある年になると感じております。

何事にも楽しく、明るく、自分らしくメンバーのサポートをしていくと共に、これまで諸先輩方が築いていただいた青年会議所で運動ができることに感謝申し上げ、岡田理事長の掲げるスローガン「起点」となる年になるよう微力ながらではありますが務めさせていただきます。



理事兼事務局長 神林 仁 (株)鋼進

明けましておめでとうございます。2019年度、事務局長を務めます、神林仁と申します。三役として会全体のサポートをし、柏崎青年会議所にとって私ができることは何かを常に考えながら努めていきたいと思っております。また広報運営検討委員会では今後の会の在り方を考える機会も設ける予定です。ご指導ご鞭撻頂きながら1年を過ごしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



監 事 山崎 健太 山崎工業(株)自動車事業部

2004年に当青年会議所に入会させていただいてから16年目を迎え、いよいよラストイヤーになりました。本年度も昨年に引き続き監事という大役を務めさせていただきます。これ迄、青年会議所活動を通じ、他では決して出来ない多くの経験をさせていただきました。その一つ一つが自分自身の宝物になっています。ラストイヤーの監事として、先輩諸兄から脈々と受け繋がれている想いをしっかりと繋いで参ります。最後の1年こそ、一番熱くいきます。よろしく願いいたします。



監 事 田中 有人 (有)インテリアサロンタナカ

私は2007年度の矢島理事長の時に入会させていただき、もう12年が経ちました。入会からこれまでLOM、ブロック、地区、本会と、本当にたくさんの経験をさせていただきながら今日までJC運動を続けさせていただき、いよいよ監事という大役をお声がけいただくことができました。2019年度はこれまでの経験をすべてLOMに伝えると同時に、柏崎青年会議所がより輝く一年間になるように陰ながら支えさせていただき所存でありますし、理事長のスローガンである「起点」となる事業を大成功に導けるよう支援していこうと考えています。これまでお世話になった先輩方、地域の方、そしてJCメンバー、また今年一年間お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

持続地域育成委員会



■副理事長兼
未来開発室長
吉越 俊一
(株)米峰

あけましておめでとうございます。副理事長兼未来開発室長を務めます、吉越俊一です。私はJC歴が9年目に突入いたしました。今まで積み上げた経験と共に、メンバーの力を結集して本年度の運動に取り組んでいきたいと考えます。本年度の未来開発室は、青少年の未来を見据えて運動してまいります。プライベートな話をしますと、私はまだ「親」ではありません。地域の青少年の気持ちを想像しながら、メンバーや諸先輩方の助言を頂き、少しでも理解しながら運動につなげていこうと四苦八苦しております。熱い思いをもった瀬下委員長と共に、悩みながらも私たちなりの答えを出していきたいと考えております。1年間どうぞよろしくお願い致します。



■理事兼持続地域育成委員長
瀬下 真人
瀬下司法書士事務所

新年明けましておめでとうございます。本年度、持続地域育成委員会委員長を仰せつかりました瀬下真人と申します。2017年度に入会し、3年目となる本年度に初理事を務めさせていただき機会を与えていただき感謝申し上げます。

当委員会では、この地域に住み続けたい、離れても戻ってきたいと思ってもらうために、青少年に柏崎刈羽地域の魅力に気づく体験をしていただくと考えています。至らぬ点があるかと思いますが、精一杯努力いたしますので1年間どうぞよろしく願いたします。



副委員長
品田 貴大
販オフィス・シナダ



運営幹事
藤巻 慎哉
販インテリアメーク



拡大幹事
木村 正隆
北刈自動車工業株式会社



赤堀 博一
柏崎信用金庫



霜田 真紀子
シノダ産業(株)



中山 将
シヤマカクダカン



三谷 宗寛
朝霞海運りんどう



森 清和
朝朝日本材

持続地域経営委員会



■副理事長兼
地域開発室長
池田 桂
(株)池忠造園

副理事長兼地域開発室長を務めます池田桂と申します。

いよいよJC運動ができるのも残すところ2年となりました。本年度は岡田理事長をサポートするとともに、初理事である間島委員長の思いを形にできるよう全力で活動してまいります。また、先輩諸兄から学ばせていただいた柏崎青年会議所魂を若手にしっかりとつないでいきたいと思ひます。一年間よろしく願ひ致します。



■理事兼持続地域経営委員長
間島 博英
間島行政書士事務所

明けましておめでとうございます。持続地域経営委員長を務めます、間島博英と申します。昨年度入会したばかりですが、委員長職にチャレンジさせていただきます。

当委員会では、持続可能な柏崎刈羽地域を本気で考えるために、行政と我々民間の青年世代との意見交換の場を設けます。また、次世代を担う市民の皆さまに地域の未来を考えるきっかけを提供し、新たなまちづくりへの機運を向上させるために尽力いたします。全身全霊でJC運動に取り組んでまいりますので、どうぞご支援のほど、よろしく願ひいたします。



副委員長
平川 尚
北刈リーニング工場



運営幹事
竹内 一公
販竹内電設



拡大幹事
品田 修吾
marron-hair



植木 秀和
ウエキハウス(株)



丸田 洋介
南高橋節造商店



山崎 徹
ピースカイ(株)



山田 健太
南オートモービル



能澤 尚寛
能澤技建(株)

エネルギー委員会



副理事長兼
社会開発室長
水戸部 智
(特非) 柏崎まちづくりネットあいさ

新年明けましておめでとうございます。入会6年目の水戸部智と申します。2019年度は、社会開発室長として柏崎JCが脈々と受け継いできた、柏崎刈羽原子力発電所をはじめとする柏崎のエネルギー政策に関する事業を担当させていただきます。急速に変化する社会情勢の中で、日本が、新潟が、柏崎刈羽地域がどのような方向に歩みを進めていくべきなのか、エネルギーに関する様々な可能性について青年企業人らしく追求していきたいと考えています。鳥の眼をもって荒野の変化を読み取り、虫の眼をもって小さな変化に学ぶ機会を、メンバーと共に創り上げていきます。今年度も地域の皆様より、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



理事兼エネルギー委員長
長澤 博
(株)テック長沢

新年明けましておめでとうございます。本年度、エネルギー委員長を仰せつかりました長沢博と申します。

本年度は、柏崎市議会、刈羽村議会が原子力発電所の誘致決議をおこなってから50年目の年になります。私たちは、柏崎刈羽地域の歴史や先輩諸氏の想いを学ぶことで今を知り、そして未来に向けてしっかりと歩める「起点」を作るためによく考え、1年間エネルギー一筋で活動してまいります。

私自身は、2014年度に入会し初の理事になります。微力ながら誠心誠意尽力してまいりたいと存じます。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



副委員長
村松 暁
新動力-メディアズ



運営幹事
入澤勇太
PVK(株)



拡大幹事
松田真之介
新潟自動車車カラス柏崎



相田隆栄
美容室コネク



高橋和宏
育処よって来や



元井貴男
伺ひかり建設



安野広明
前カ-ミングスタッフ



山口敏宏
(株)フジ商事

会員拡大交流委員会



副理事長兼
会員開発室長
品田 剛
品田通信電設(株)

本年度、副理事長兼会員開発室長を務めさせていただきます。品田剛と申します。

2013年度に入会をさせて頂き、青年会議所活動も7年目となり、最後の1年となりました。これまで先輩諸氏より得た多くの学びをメンバーへ伝え、会員拡大を最大の使命として、岡田理事長の掲げるスローガンのもと、この1年間、微力ではありますが努めてまいりたいと思います。ご指導よろしくお願い致します。



理事兼会員拡大交流委員長
伊平 泰将
(株)伊平板金工業所

新年明けましておめでとうございます。今年度、会員拡大交流委員長を仰せつかりました伊平と申します。

当委員会は「多くの仲間と互いの個性と才能をぶつけ合い、自己研鑽し、成長と価値を分かち合う同志を増やす」という方針を元に、青年会議所ならではの業種を越えた幅広い人脈を作り、深い信頼関係を築き、魅力ある「人材」が魅力溢れる「人材」になるよう取り組んで行きます。そして、魅力溢れるメンバーと共に一年間活動していきたいと思っております。本年も宜しくお願い致します。



副委員長
海津勇太
(株)スワロー



運営幹事
小林拓也
新動力カブ-サービス



拡大幹事
大塚拓也
(株)泰拓工業



飯田雄介
山田工業(株)



上森 茜
前品田プラント建設



川口泰史
(株)川口ポンプ



高橋宏忠
(株)高忠商店

広報運営検討委員会



■理事兼事務局長
神林 仁
(株)鋼進



■理事兼広報運営検討委員長
佐藤雅宮
御嶽山神社

明けましておめでとうございます。広報運営検討委員会の委員長を務めさせていただきます佐藤雅宮と申します。

岡田理事長の元、「起点」という本年度のスローガンに相応しいように、発行物や様々な媒体・機会を通して、委員会総員で以て会を、そして理事長を支えていきたい所存です。

事務方ではありませんが、よく考えて、よく動いて、会の今後の一助となるような成果をあげて一年を終えられたらと思います。また他の委員会も精力的な事業が多いので、助けになっていきたいです。

本年も一年よろしくお願いたします。



副委員長
松野颯太
(有)松野組



運営幹事
岸 剛史
(有)日管工業



青木健次
(有)大日商会



田邊哲也
(有)タナベスタジオ



吉田晃継
(株)柏新商会



拡大幹事
徳増大樹
(有)競加・アソシエイト

2019年度 出向者紹介

北陸信越地区新潟ブロック協議会



～始まりは、すべてのつづき～

■副会長



副会長
田中 有人

■新潟アカデミー委員会



幹事
山口 敏宏



委員
中山 将



委員
丸田 洋介



委員
山崎 健太

■地域ブランド創出委員会



委員
川口 泰史



委員
元井 貴男



委員
岸 剛史



委員
高橋 宏忠



委員
赤堀 博一



委員
山崎 徹

■事務局



事務局員
吉田 晃継

■社会変革創出委員会

■笑顔あふれる人材創出委員会

2018年度 事業報告

1月	新年総会	  
2月	2月例会 新年祝賀会	  
3月	Forum21 3月合同例会（柏崎）	  
4月	4月例会 日本一の会員拡大セミナー ～拡大は個人競技でなく団体競技である～	  
5月	5月公開例会 “火種” となれ！ ～混迷の時代を生き抜く意識改革～	  
6月	6月例会 柏崎を取り巻くエネルギー環境を考えよう！	  
7月	7月公開例会 担げ御輿！刻め誇り！ここにあるぞ柏崎！	  
8月	8月公開例会 BOSAI DAY CAMP ―生き抜く力を学ぶ― in柏崎・夢の森公園	  
9月	通常総会	  
10月	10月公開例会 柏崎から広がる君たちの未来！！ ～語ろう！超柏崎！～	  
11月	11月例会 卒業式	  
12月	12月例会 謝恩会―ありがとう―	  

明るい豊かな社会に向けて私たちと一緒にJC運動が出来る仲間を募集しています。
新入会員情報があればよろしくお願いします。

2018年度 卒業式報告



11月20日に柏崎市民活動センターまちから様にて執り行われました。2018年度は阿武逸彦先輩、伊藤勝史先輩、田邊修一先輩、中村貴広先輩、根立健一先輩、前澤佳奈子先輩の6名の皆様のご卒業され、荒川学理事長より、感謝状と記念品が贈呈されました。先輩方の立てられた数々の功績が、現役に引き継がれる財産であり、原動力であります。卒業生お一人お一人からスピーチをいただきながら、志を受け継ぎ、感謝と畏敬の念をもって新たな門出を祝福する、意義深い例会となりました。

2019年度 年間スケジュール

月	例会日	担当	例会内容	例会会場	LOM事業	新潟ブロック	北陸信越地区および日本JC	正副	理事会	会員会議所会議
1月	30日(水)	広報運営検討	新年通常総会	ザ・シャンカーラ	新年祝賀会(30・水)		京都会議(17・木~20・日) 会員会議所会議・京都(18・金) 総会・京都(19・土)	4・金	16・水	新潟(26・土)
2月	21日(木)	エネルギー	例会	XI羽村生涯学習センター ラビカ		第1回新潟ブロックコンファレンス・新潟(9・土) 雪合戦・魚沼(17・日)	金沢会議(22・金~24・日)	12・火	26・火	
3月	15日(金)	会員拡大交流	Forum21合同例会	小千谷	まちしるべメンテナンス	ブロック会長エリア訪問(15・金)	総会・東京(23・土)	12・火	26・火	燕三条(2・土) 柏崎(30・土)
4月	20日(土)	持続地域育成	例会	かしわざき市民活動センターまちから		新潟ブロックアカデミー(会頭訪問)(5・金) バスケットボール大会・新発田(14・日)		9・火	23・火	長岡(27・土)
5月	15日(水)	持続地域経営	例会	柏崎商工会議所		野球大会・魚沼(11・土) ゴルフ大会・長岡(18・土)		13・月	28・火	五泉(24・金)
6月	3日(月)	広報運営検討	例会	かしわざき市民活動センターまちから		中条40周年(1・土) 加茂55周年(9・日) サッカー大会・新潟(22・土 or 23・日)		11・火	25・火	佐渡(29・土)
7月	13日(土) 14日(日)	持続地域育成	例会	ネイチャーランド権谷	ぎおん柏崎まつり(25・木)		会員会議所会議・武生(5・金) 地区フォーラム・武生(6・土) 国際アカデミー・軽井沢(8・月~12・金) サマコン・横浜(20・土~21・日)	9・火	23・火	にいがた北(27・土)
8月	3日(土)	エネルギー	例会	かしわざき市民活動センターまちから				6・火	27・火	十日町(24・土)
9月	6日(金)	広報運営検討	9月通常総会	柏崎エネルギーホール	9月通常総会懇親会(6・金) 新入会員育成勉強会	上越55周年(1・日) 栃尾50周年(8・日) 新潟65周年(14・土) 小千谷60周年(21・土)		10・火	24・火	上越(28・土)
10月	18日(金)	持続地域経営	例会	柏崎市文化会館アルフォーレ		ブロック大会(5・土)	全国大会富山(10・木~13・日) 総会・富山(11・金)	8・火	24・木	新発田(27・日)
11月	22日(金)	広報運営検討	例会	みすち	エネルギー委員会担当事業 シニアクラブ交流会	第2回新潟ブロックコンファレンス・中条(2・土) にいがた北35周年(10・日)		11・月	26・火	小千谷(30・土)
12月	14日(土)	会員拡大交流	感謝状授与式 忘年パーティー	ザ・シャンカーラ			会員会議所会議・未定(7・土)		19・木	未定(21・土)

- 持続地域育成 担当例会(4月)、担当例会(7月)、まちしるべメンテナンス(3月)、職業講話、ブロックスポーツ大会(サッカー6月)、中条40周年(6月)、全国大会(10月)
- 持続地域経営 担当例会(5月)、担当例会(10月)、新入会員育成勉強会(9月)、ブロックスポーツ大会(バスケ4月)、加茂55周年(6月)、上越55周年(9月)
- エネルギー 担当例会(2月)、担当例会(8月)、担当事業(11月)、シニアクラブ交流会(11月)、ブロックスポーツ大会(野球5月)、栃尾50周年(9月)、新潟65周年(9月)
- 会員拡大交流 Forum21合同例会(3月)、担当例会(12月)、新年祝賀会(1月)、ぎおん柏崎まつり(7月)、9月通常総会懇親会(9月)、優秀会員表彰、ブロックスポーツ大会(ゴルフ5月)、ブロック大会(10月)
- 広報運営検討 新年通常総会(1月)、9月通常総会(9月)、担当例会(6月)、担当例会(11月)、JCハンドブック発行(1月)、JCニュース発行(1月)、つどい発行(12月)、小千谷60周年(9月)、にいがた北35周年(11月)
- 三 役 京都会議(1月)、新潟ブロックコンファレンス(2月・11月)、新潟ブロックアカデミー(4月)、地区フォーラム(7月)、サマーコンファレンス(7月)

<例 会> 新年通常総会(1月)、9月通常総会(9月)、Forum21合同(3月)、事業系3委員会+広報運営検討委員会8回、感謝状授与式・忘年パーティー(12月) 計12回
 <周 年> 新潟65周年、小千谷60周年、上越55周年、加茂55周年、栃尾50周年、中条40周年、にいがた北35周年 計7回
 <ブロック> ブロック大会、第1回プロコン、第2回プロコン、新潟ブロックアカデミー(会頭訪問)、スポーツ大会(5回) 計9回

2018年度 新入会員の紹介



品田 貴大
(株)オフィス・シナダ



相田 隆栄
美容室コネクト



平川 尚
北陸クリーニング工場



村松 暁
東京電力ホールディングス(株)



間島 博英
間島行政書士事務所